



## アベノミクスは失敗か

政策が失敗であったか成功であったかは政策が掲げた目標や数的ターゲットが達成できたかどうかによる。

アベノミクス 3本の矢の目標は日本経済を「デフレから脱却」させ、成長路線に乗せることであった。

第一の矢は金融緩和戦略、第二の矢は財政戦略、第三の矢は成長戦略であった。

金融緩和戦略のターゲットはインフレ率 2%、財政戦略は 2013 年から 10 年間で 200 兆円を投じて国土強靱化計画を実施する、成長戦略は聖域と言われてきた農業、医療、教育分野の規制緩和等で新たな市場を創造することであった。

黒田日銀総裁は 2013 年 4 月 4 日異次元金融緩和を発表、2 年後に物価を 2%上げると発表したが、2015 年 4 月までに達成できず、2016 年 10 月に延期、今期 0.4%下落なので絶望。

年間 10 兆円の東日本大震災インフラ復旧を含む国土インフラ公共投資にもかかわらず内需は拡大されず GDP（経済成長）はインフレ調整後でゼロ又はマイナス。

規制緩和、構造改革も生産性向上に全く寄与していない。

規制緩和と構造改革は生産性を含む供給力に寄与するからデフレの元凶である生産過剰を増幅させる。

皮肉にも第三の矢が不発に終わってデフレが促進されなかったのはラッキーであった。

言うまでもなくアベノミクス三本の矢は的に届く前にすべて折れてしまった。

デフレ脱却ならず、経済成長鈍化、異常緩和で株価と地価だけ上げたしっぺ返しを前にして 2017 年 4 月消費税増税などともないことである。

リーマンショック前と伏線を張って伊勢志摩サミットで各国首脳に経済不安無きにしもあらずの同情のお言葉をいただいてやっと増税延期発表。

ロシア急接近は格好良かったが、アベノミクス失敗の誤魔化し方は惨めとしか言いようがない。

## 機動的財政出動

財政出動は 2013 年 4 月 4 日に麻生財務大臣が発表すべきことであった。

弱った日本経済に投与すべきは栄養剤（財政出動）であってカンフル剤（金融緩和）ではないと私は本誌でも何度も述べたが安倍首相を取り巻く有識者、学識経験者の皆様には通じなかったようだ。

Nothing is too late（何事も遅すぎることはない）。

異次元金融緩和で創った金融、不動産バブルを調整してからの財政出動なら長期成長、現状のままでの財政出動なら 1989 年のように一瞬の夜空の花火で終わる。

国の債務は国民の資産だから財源など気にしないでどんどん赤字国債発行で最も相乗効果があるコンクリート、箱物公共投資をすることだ。

**残数わずか！ 完売後コピー対応となります。増田俊男の小冊子 Vol.79**

**『浮上する(させられる)日本！ 2016 年－2017 年は日本が主役だが、、、！？』**

現在、増田俊男の小冊子 Vol.79『浮上する(させられる)日本！ 2016 年－2017 年は日本が主役だが、、、！？』が残りわずかです。\*富裕(1)対貧困(99)の 21 世紀奴隷制度は何故続く\*安倍首相の主権外交への大転換を歓迎する国、しない国\*Mr. Jim Rickard の奇想天外の進言で FRB はどう動くか\*世界経済再生の為の捨て石になる日本等の内容です。お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (Tel: 03 3955-6686、HP: [www.chokugen.com](http://www.chokugen.com)) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3955-6466) までお知らせ下さい。